

都内中小企業の事業資金に関する調査

(平成28年11月調査)

《 概要 》

- 主な取引金融機関は、「都市銀行」が57.4%で最も高く、次いで「信用金庫」が31.1%となっており、この2つで約9割を占める。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、37.0ポイントと2.3ポイント上昇した。「緩やか」が「厳しい」を大きく上回る状況が続いている。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が65.2%と前回に比べ3.8ポイント上昇し、「低下」が20.2%と4.8ポイント減少した。
- 最近の借入金利は、「1%台」が40.5%と最も高く、次いで「2%台」が29.9%、「1%未満」が22.3%となった。「1%未満」、「1%台」、「2%台」を合わせると引き続き9割を超え、金利水準は低めに推移している。
- 今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）でみると、10.5となった。前回と比べて6.7ポイント上昇した。
- 金融機関からの借入金総額の状況は、前年同時期と比べて「減少した」が42.2%、「変化なし」が39.4%となった。今後1年以内に現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が52.4%で過半数を占めた。

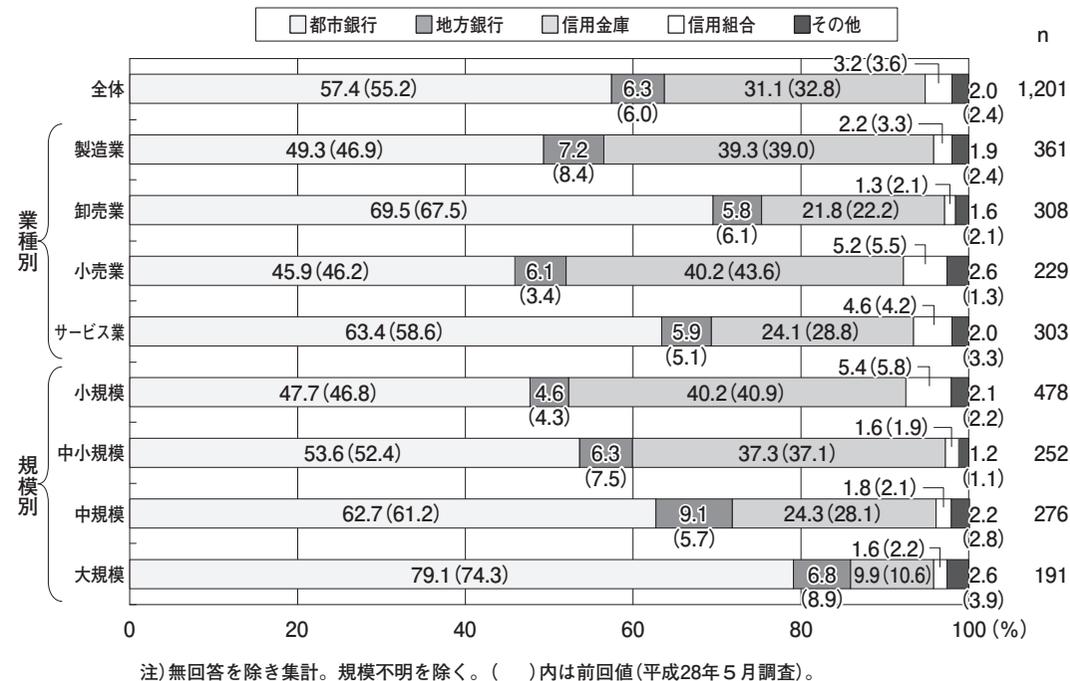
1 主な取引金融機関

主な取引金融機関は、全体では「都市銀行」が57.4%（前回55.2%）で最も高く、次いで「信用金庫」が31.1%（同32.8%）となっており、この2つで約9割を占める。このほか、「地方銀行」が6.3%（同6.0%）、「信用組合」が3.2%（同3.6%）となった。

業種別にみると、全業種で「都市銀行」が最も高く、特に卸売業では69.5%と7割近くに達している。一方、製造業と小売業では、第2位の「信用金庫」が約4割を占め、「都市銀行」との差は小さい。

規模別にみると、小規模では「都市銀行」が47.7%、「信用金庫」が40.2%で拮抗している。規模が大きくなるほど「都市銀行」が高く、「信用金庫」が低くなる傾向がみられ、大規模では「都市銀行」が79.1%と8割近くを占めている。

図表1 主な取引金融機関



2 借入や返済に対する姿勢

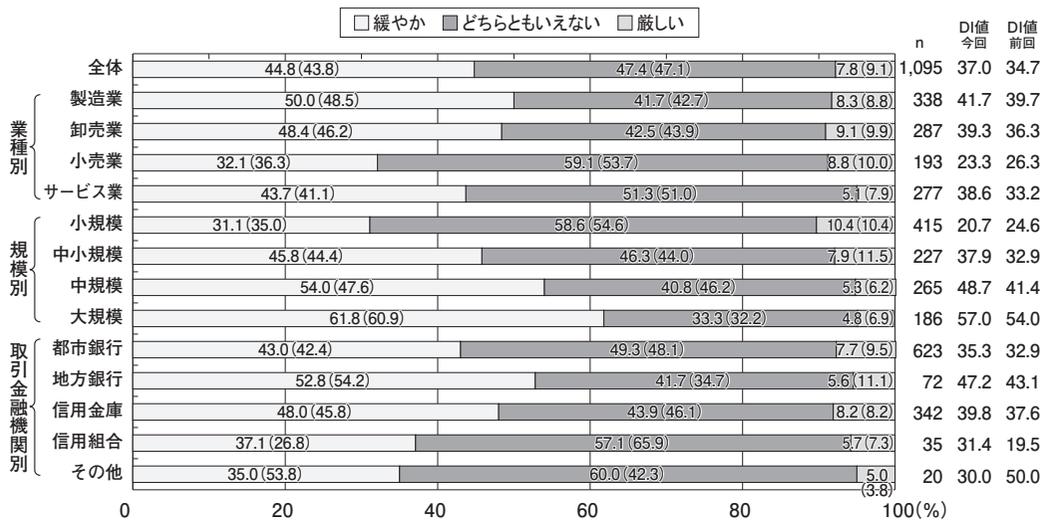
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では37.0（前回34.7）と2.3ポイント上昇した。「緩やか」が「厳しい」を大きく上回る状況が続いている。

業種別にみると、製造業41.7（同39.7）、卸売業39.3（同36.3）、サービス業38.6（同33.2）と、DI値が上昇した。一方、小売業23.3（同26.3）のみDI値が低下した。

規模別にみると、小規模を除く全ての規模でDI値が上昇した。大規模57.0（同54.0）は3.0ポイント上昇し、引き続き「緩やか」が約6割を占める状況が続いている。

取引金融機関別にみると、回答企業の取引割合が高い都市銀行では35.3（同32.9）とDI値が2.4ポイント上昇し、緩和傾向となった。また、信用金庫39.8（同37.6）はDI値が2.2ポイントの上昇となった。

図表2 取引金融機関の借入や返済に対する姿勢



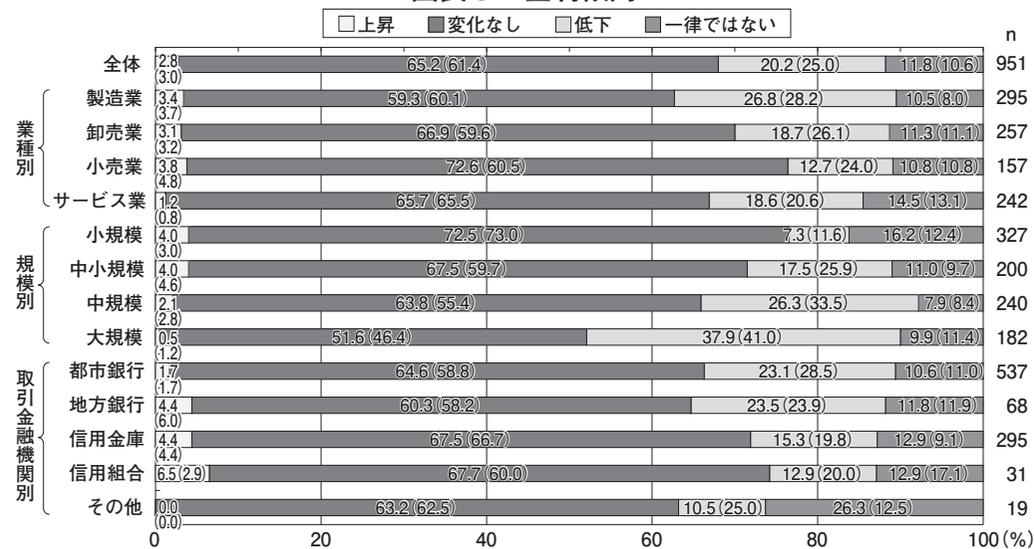
注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成28年5月調査)。

3 主な取引金融機関からの借入金利

(1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が65.2% (前回61.4%) と前回に比べ3.8ポイント上昇し、「低下」が20.2% (同25.0%) と4.8ポイント減少した。全ての業種、規模、取引金融機関で、「低下」が減少し、借入金利の低下傾向が一服した。

図表3 金利傾向



注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成28年5月調査)。

(2) 金利水準

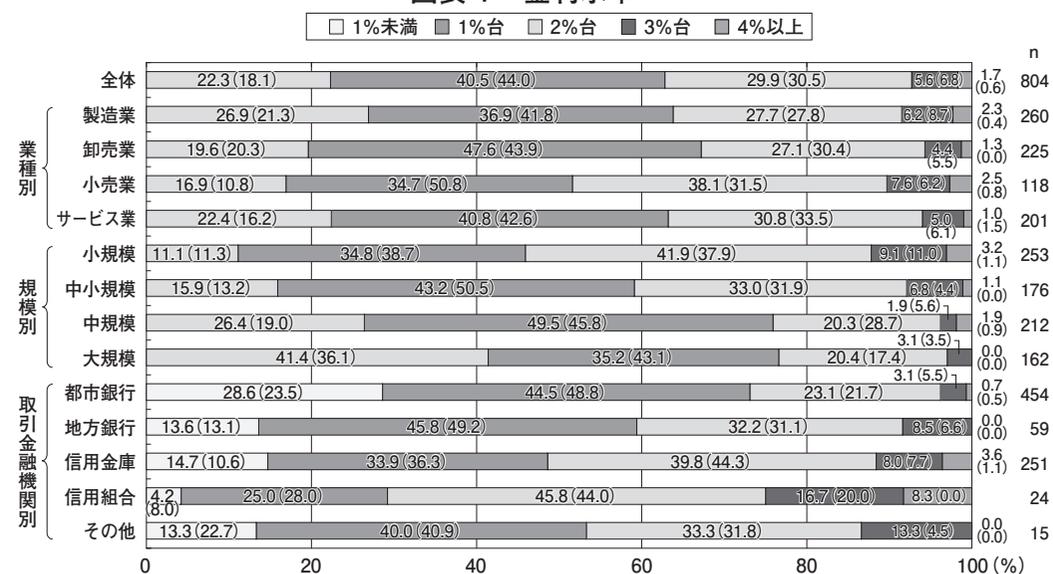
最近の借入金利は「1%台」が40.5% (前回44.0%) と最も高く、次いで「2%台」が29.9% (同30.5%)、「1%未満」が22.3% (同18.1%) となった。「1%未満」、「1%台」、「2%台」をあわせると引き続き9割を超え、金利水準は低めに推移している。

業種別にみると、製造業では「1%未満」が26.9% (同21.3%) と、4分の1以上を占めている。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「1%未満」が高くなっており、大規模では4割を超えている。

取引金融機関別にみると、都市銀行では「1%台」が44.5%で最も高く、「1%未満」とあわせると7割を超えている。信用金庫では「2%台」が39.8%で最も高くなった。

図表4 金利水準



注)無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成28年5月調査)。3年超5年以内、保証協会の保証付以外。

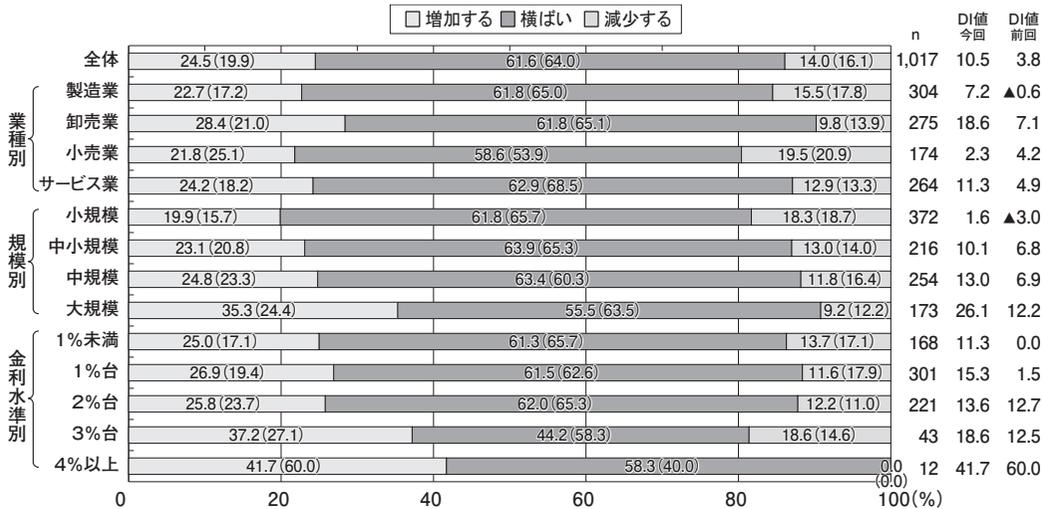
4 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値(「増加する」-「減少する」)でみると、全体では10.5 (前回3.8) となった。前回と比べて6.7ポイント上昇した。

業種別にみると、小売業以外の業種でDI値が上昇した。特に卸売業18.6 (同7.1) は11.5ポイントと大きく上昇した。

規模別にみると、全ての規模でDI値が上昇し、特に大規模26.1 (同12.2) で13.9ポイントと上昇幅が大きい。

図表5 資金需要（今後3か月間）

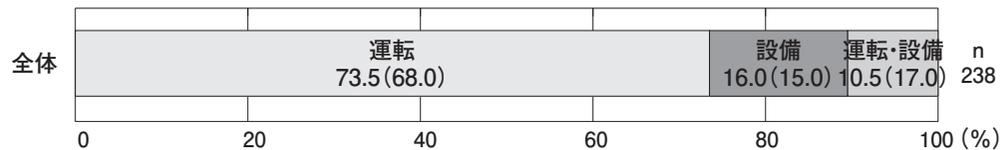


注) 無回答を除き集計。規模・金利水準不明を除く。()内は前回値(平成28年5月調査)。

(1) 資金使途

資金需要増加分の資金使途をみると、「運転」が73.5%（前回68.0%）と最も高く、次いで「設備」が16.0%（同15.0%）、「運転・設備」が10.5%（同17.0%）となった。前回に比べ「運転」が5.5ポイント、「設備」が1.0ポイント増加した。

図表6 資金使途

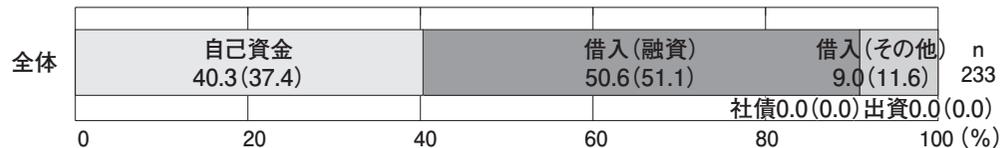


注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成28年5月調査)。

(2) 調達手段

資金需要増加分の調達手段をみると、「借入（融資）」が50.6%（前回51.1%）と最も高く過半数を占めた。次いで「自己資金」が40.3%（同37.4%）となった。前回に比べ「借入（融資）」が0.5ポイント減少し、「自己資金」が2.9ポイント増加した。

図表7 調達手段



注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成28年5月調査)。

5 金融機関からの借入金総額の状況

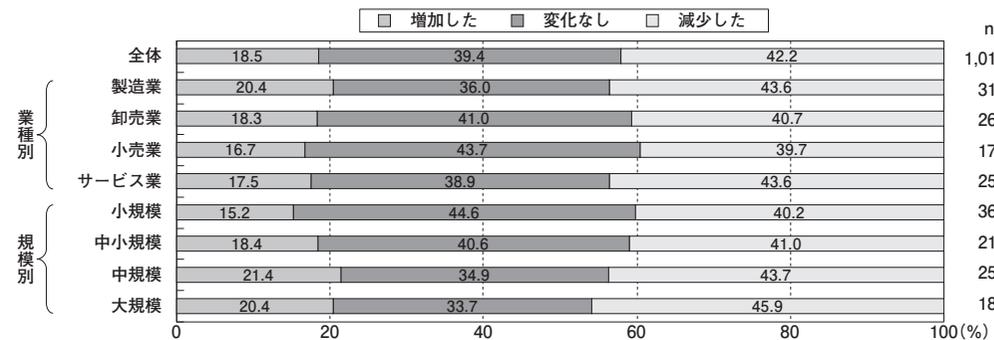
(1) 借入金総額（前年同時期比）

前年同時期と比べた現在の金融機関からの借入金総額の状況は、全体では「減少した」が42.2%、「変化なし」が39.4%となった。借入金総額が「増加した」のは18.5%となっている。

業種別にみると、「増加した」は製造業で20.4%とやや高く、次いで卸売業が18.3%となっている。

規模別にみると、「増加した」は中規模で21.4%、大規模で20.4%と、それぞれで2割を超えている。

図表8 金融機関からの借入金総額（前年同時期比）



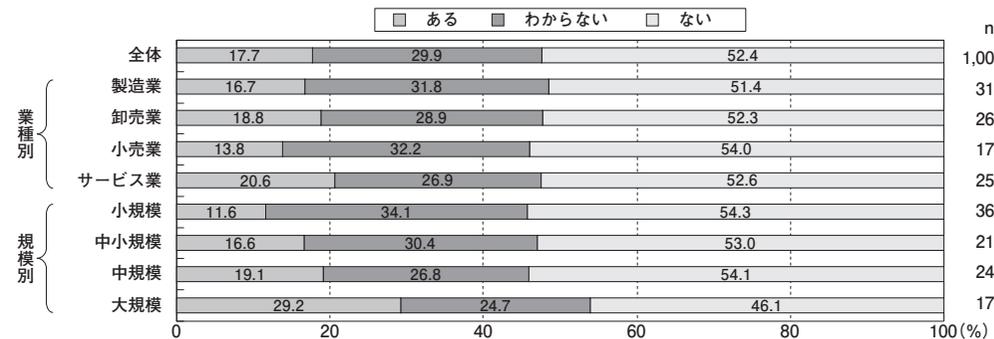
注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。

(2) 借入金総額の増加見込み（今後1年内）

今後1年内に金融機関からの借入金総額が現在額を上回ることがあるかについては、「ない」が52.4%で過半数を占めた。「ある」は17.7%となっている。

業種別にみると、全ての業種で「ない」が過半数を超えている。規模別にみると、大規模では「ある」が29.2%と3割近くを占めている。

図表9 借入金総額の増加見込み（今後1年内）



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。